

上川口小学校

地域あつての学校

学校あつての地域

校長 野中 道八

上川口小学校では、令和3年度より「地域あつての学校、学校あつての地域」をめざして、ふるさとキャリア教育を軸として、児童の自己肯定感を高めながら「知・徳・体・地域教育」のバランスのとれた教育活動を行っています。そのいくつかを紹介します。

◆地域まると防災学習

今年も9月3日(日)、「全国防災の日」に合わせて地域との防災学習訓練を行います。今年度の対象地域は、「上川口浦、郷、王迎、王無有井川」の5地区となっています。防災意識を学校から高め地域に発信する取組でもあります。

主な活動として

- 避難を呼びかけるチラシ配り 8月30日(水)

行政職員、小学校児童、

教職員、地区役員が津波避難のチラシを配ります。ポスターも掲示します。

- まるごと避難訓練

9月3日(日)

上川口浦地区へ避難を呼びかけながら、児童は寺山へ避難。

- 避難場所でのタープづくり
一晩ぐらいいは過ごすことがでる TENT を張り

- 「マルニ」による防災学習指導

- 防災食体験

以上の訓練を、学校、PTA、地域、行政が一体となつて行います。



一軒一軒チラシを配っています

◆子どもたちが

地域を盛り上げる活動



みんなで避難訓練



マルシェ協力のチラシ配り

今年度も上川口地域を盛り上げると同時に、自分たちの探究的な学習の場を広げるために「上川口マルシェ」

を行います。この取組は、生産から販売までを児童が主体的に考え取り組んでいきます。また、他の販売店にも声をかけて販売活動を行ってもらいます。その際児童は、販売活動の様子をメモしたり直接訪ねたりしながら販売のコツを学んでいきます。このように、「上川口マルシェ」は地域を盛り上げるための子どもたちの学習の場として定着してきました。

これらの活動から得られるものは、

- かなえるための力
- 道徳観
- 正義感
- 自己肯定感

です。児童一人ひとりが意欲をもって学びに向かう姿の高まりが児童の学力を高め、進路を保障していきます。

令和5年度の上川口マルシェ
日時 11月25日(土)
午前11時～

場所 上川口小学校



自分たちで作ったもち米の販売



田ノ口小学校

小規模校の良さを活かした学校をめざして

校長 東 卓志

◆はじめに

今年度、田ノ口小学校は、全校児童11名でスタートしました。ここ数年は入学生がいない年があり、今年度は、入学生がいまませんでした。そのため、学級は2年・4年生学級と5年・6年生学級の合計2学級となっています。児童数は、年々減少傾向ではありますが、それぞれの児童が、個々の役割をもって、自立しながら活発に活動するなど、本校の良き伝統と校風を引き継ぎながら教育活動に取り組んでいます。

◆学校経営計画について

今年度の本校教育目標は、「豊かな心と何事にも自らが進んで取り組もうとする児童の育成」としています。また、より良い学校教育を通じて社会を創るという目標を学校と社会とで共有し、ふるさとである黒潮町を愛する児童の育成と将来にわたり地域を支えていく人材を育成することが、学校の使命であると考えています。そのために、確かな学力(知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力)を身につけることと、健やかな体と豊かな心を育む学校づくりをめざしています。

◆ふるさと黒潮町について 学ぶ取組

本校では、総合的な学習の時間やふるさとキャリア教育の時間を使って、ふるさと黒潮町についての学習を深めています。

5・6年生は、昨年度に引き続きグリーンレモンについての学習に取り組んでいます。7月には、生産農

家に出向き、栽培や出荷に至るまでの苦労や商品の流通方法などを学んできました。また、聞き取りや栽培の様子についての見学を行うだけでなく、今年度は、校内においてもレモンの栽培に取り組んでいます。露地栽培とはいきませんが、玄関先に2本のレモンを鉢に植えており、どのようにレモンが成長していくのか、楽しみにしながら、日々の成長を記録に残しています。

2・4年生は、黒潮町の特産品の一つである黒砂糖の原料となるサトウキビの栽培に取り組んでいます。昨年度、サトウキビを栽培している方に苗をいただいたので、プール横の空き地を開墾して畑をつくり、冬を越したサトウキビの苗(冬場は、段ボール箱に入れ、毛布に包み教室内に保管)を植えました。草引きを定期的にを行うなど、手入れも忘れずに行っています。今後は、地域の方のアドバイスをいただきながら、育てていき、刈り取りの頃には大きく育ってほしいものです。

また、黒潮町内の畑など

で見ることのできるキュウリやトウモロコシ、サツマイモなどの作物を育てるとともに、生活科や社会科・理科の授業でも活用しながら栽培に関する知識なども学んでいます。そのほかにも、サーフィン教室やホエールウォッチング、砂浜美術館への参加や、校区内にある高齢者施設グループホーム「しらゆり」との交流も行っています。このように黒潮町の自然や観光・施設などについても学習を深めながら、人々とのふれあいを通じて、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にする人材の育成に努めています。



◆正確な情報の伝達と自分自身の考えを育てる取組へ

児童たちは、日々の授業の中で、さまざまな学習に取り組んでいます。そうした中で、学ぶことの量に比べ、学んだ内容を相手に伝えたり、外に発信する量は

随分と少ないものだと思います。そこで、昨年度から授業以外で、5年生以上を対象に新聞記事の内容とその記事に対する自分自身の考えを原稿用紙に書く取組を行っています。更に今年度は、全校集会で2名ほどが、発表をしています。まだまだ原稿用紙のマス目すべてに書いてくることはできていませんが、少しずつ文字数が増えてきた児童もあり、記事の内容を読み取り、相手に正確に伝えることや、自分の考えを伝える力にもなることを期待しています。

◆小規模校の良さを活かした学校へ

さて、ここ数年入学生がいない年があるなど、不安定な学校の状況が続いていますが、小規模校でしかできない取組やその良さを最大限に活かしながら、児童一人ひとりが、元気で仲間とともに輝きながら学校生活を通じていける学校をめざし、地域とともに歩む学校であり続けたいと考えています。